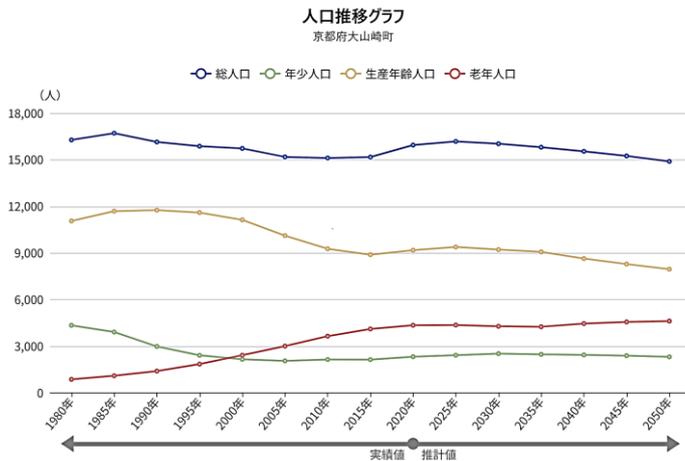


【1】人口構成と動態：地域の基礎体力

1. 総人口の推移と将来推計（2020年）

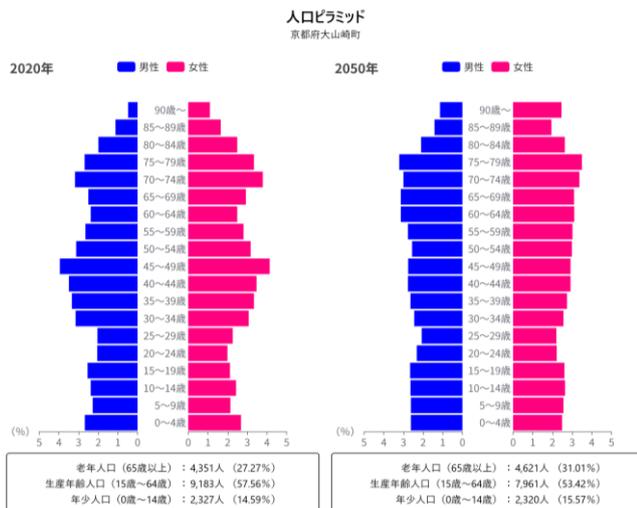


- 人口マップ > 人口構成分析 > 人口推移 TAB

【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

- 2020年の人口は15,953人。2000年の15,736人に比べて、微増している。将来人口を見ると、2030年までは微増し、それ以後は人口減少が続く見込みである。
- 今後の傾向として、年少人口と生産年齢人口はほぼ将来人口と同じ傾向であり、老年人口は2030年に減少傾向となるがそれ以降は増加傾向である。
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳。老年人口は65歳以上を指す。

2. 人口ピラミッドの変化（2020年）



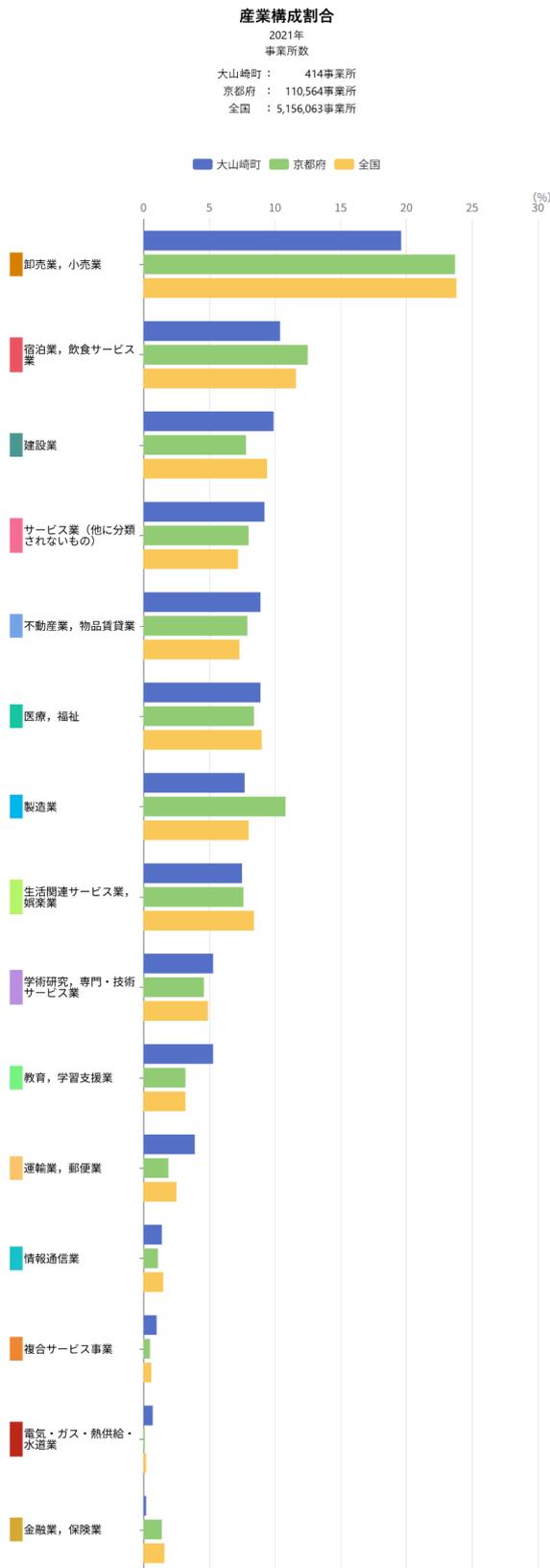
- 人口マップ > 人口構成 > 人口ピラミッド TAB

【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

- 国勢調査の最新年（2020年）と将来2050年（推計）を並べて比較表示している。
- 老年人口の割合を見ると、2020年の27.27%から2050年には30.01%まで上昇する。
- 年少人口の割合は、2020年の14.59%から2050年には15.57%まで増加する。
※高齢化率: 65歳以上の割合を数値で記載。医療・介護需要の増大を示唆します。
※若年層: 0～14歳人口の割合から、将来の持続可能性を評価します。

【2】 産業構造：地域の稼ぐ力

1. 産業構造の全体像（事業所数、2021年）



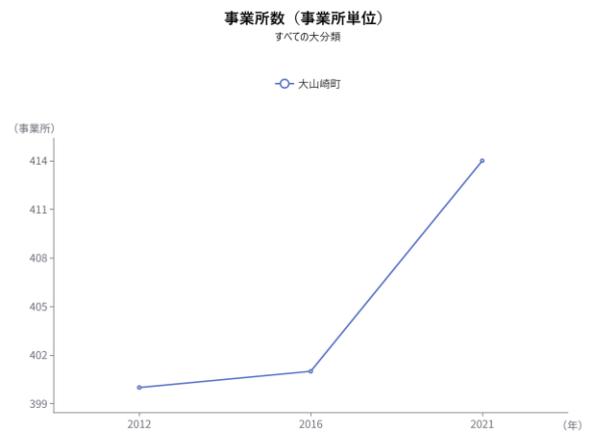
- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 産業構成 TAB

【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

- 業種ごとに地域の事業所数の順で並んでいる。最も多いのは卸売業・小売業で81事業所である。構成割合は19.6%を占める。
- 2番目に多いのは宿泊業、飲食サービス業で43事業所である。構成割合は10.4%で京都府の平均より低めである。

2. 産業構造の全体推移（事業所数、2021年）

- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）TAB

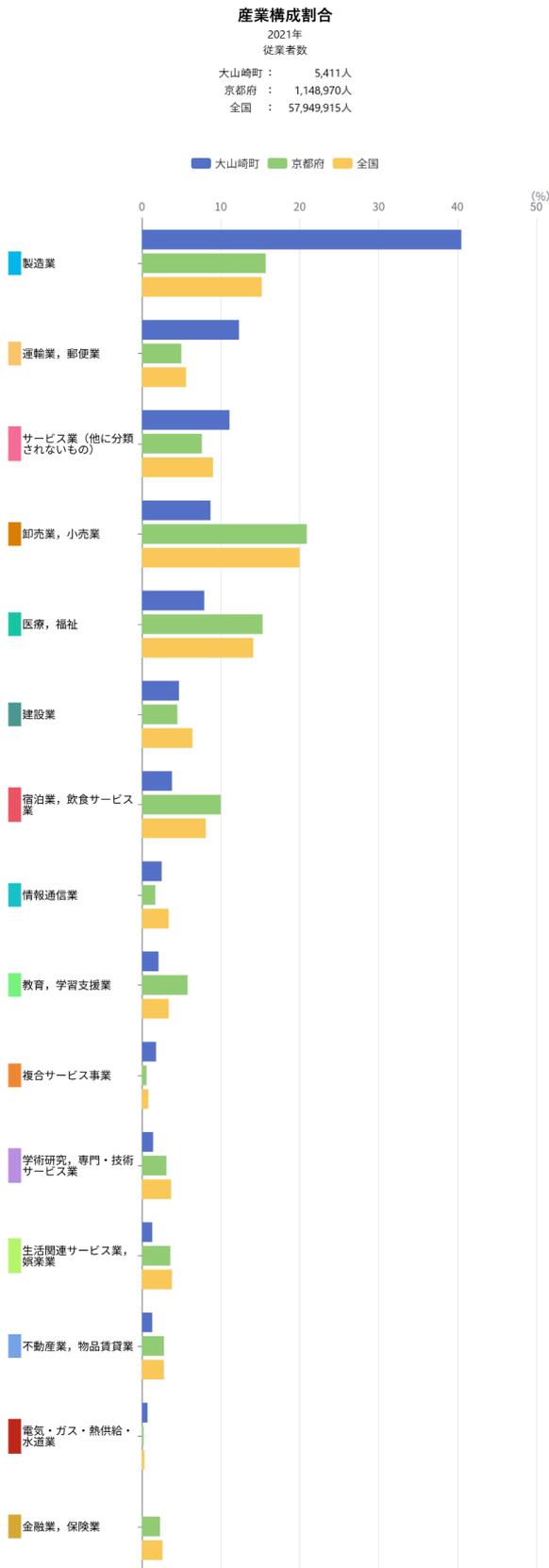


•2021年の事業所数は414事業所である。2012年は400事業所であり、増加している。

- ・近隣の長岡京市は減少傾向である。

- 卸売業・小売業
93事業所(2012年)→ 81事業所(2021年)
- 製造業
30事業所(2012年)→ 32事業所(2021年)

3. 産業構造の全体像（従業員数、2021年）



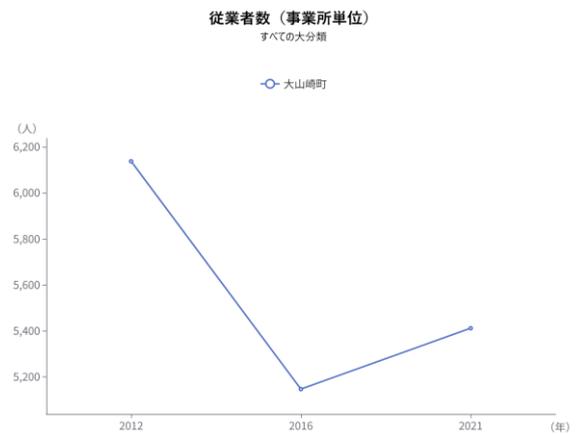
- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 産業構成 TAB

【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

- 業種ごとに地域の従業員数の順で並んでいる。最も多いのは製造業で2,192人である。構成割合は40.5%を占める。
- 2番目に多いのは運輸業、郵便業で664人である。構成割合は12.3%で地域の雇用を支えている。

4. 産業構造の全体推移（従業員数、2021年）

- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）



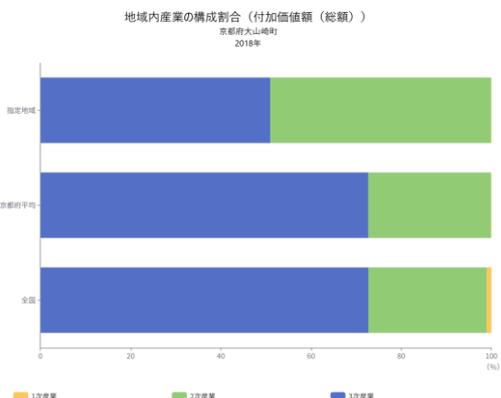
- 2021年の従業員数は5,411人である。2012年は6,137人であり、減少している。

- 近隣の長岡京市では従業員数は増加している。

5. 産業別付加価値額の構成(2018年)

- 地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見る TAB

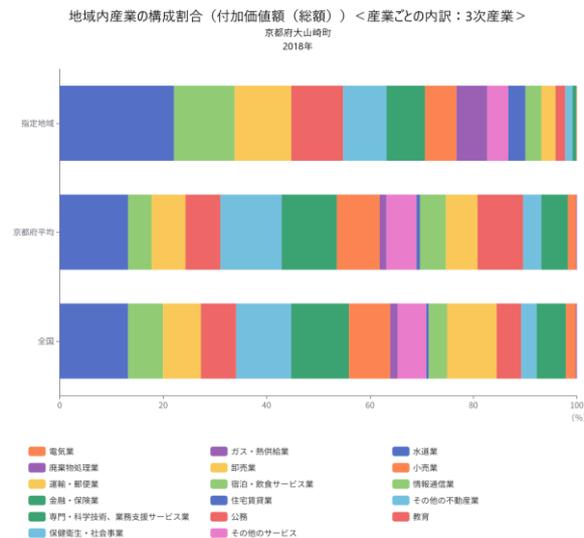
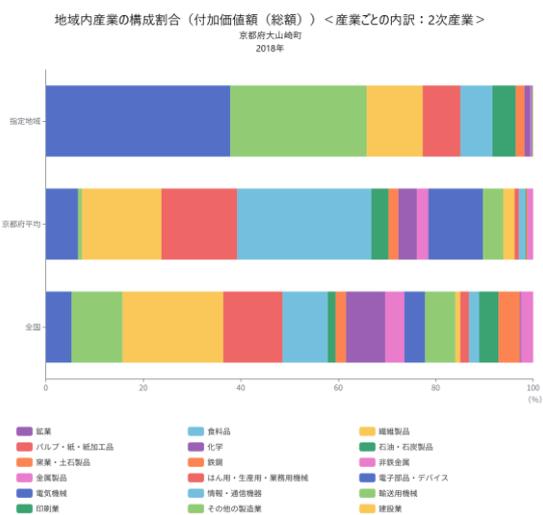
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)



- 地域の産業の構成割合を京都府及び全国と比較したグラフである。比較では地域の3次産業が51.0%、2次産業が49.0%は、京都府の3次産業が72.7%、2次産業が27.2%、全国の3次産業が72.7%、2次産業が26.2%と比較すると、大山崎町では、2,3次産業とほぼ同じ割合である。

6. 産業別付加価値額の構成(2018年) 産業ごとの内訳

- 地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見る TAB



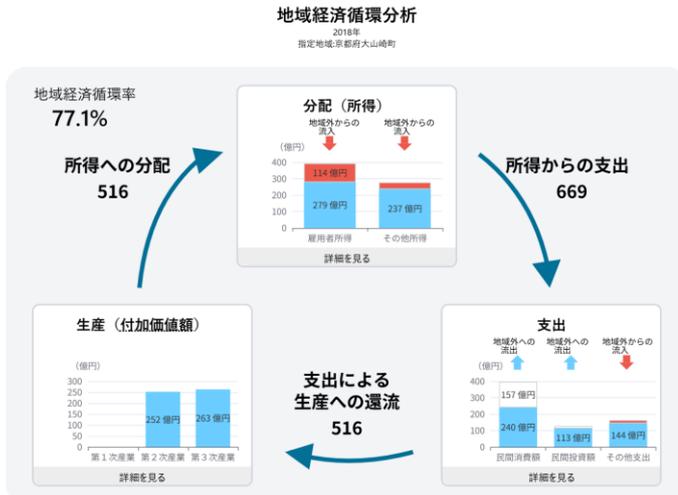
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

- 地域内の二次産業で、構成割合の一位の電気機械が37.8%、二位の輸送用機械が27.0%、三位の建設業が11.5%である。地域の二次産業の付加価値額総額は252億円である。
- 地域内の三次産業で、構成割合の一位の住宅賃貸業が22.1%、二位の情報通信業が11.7%、三位の運輸・郵便業が11.0%である。地域の三次産業の付加価値額総額は263億円である。
- 稼ぎ頭の特定:** 従業者数だけでなく、「金額ベース」で最も稼いでいる産業を順に3つ挙げています。
- 構造的特徴:** 第2次産業(製造業)主導型か、第3次産業(サービス業)主導型かを分類します。

【3】地域経済循環：お金の流れ

1. 地域経済循環図（2018年）

- 地域経済循環マップ > 地域経済循環図



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

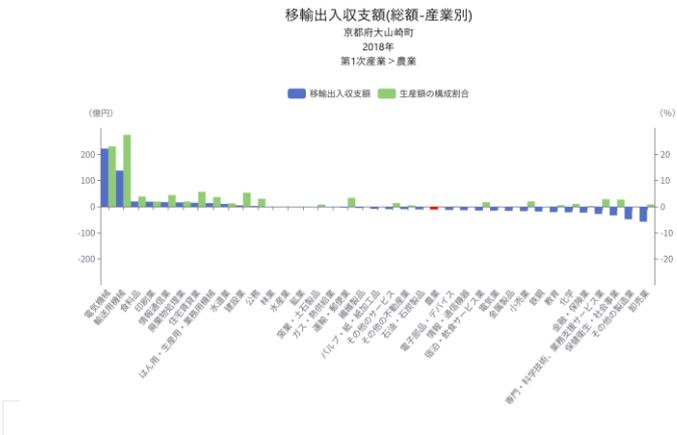
- 地域内の活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて再び地域内に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。
- 大山崎町は、516億円の付加価値を生みだしている。
- その付加価値は、市外との流出入により差引され669億円が市内に分配され、支出に回っている。
- 市内に支出された金額は516億円。地域内の所得669億円より少なく、稼ぎが市外へ流出している。
- 地域経済循環率: 100%を超えていれば外貨を獲得できおり、下回ってれば地域外への依存度が高い状態です。
- 大きな流れ: 「生産」→「分配」→「支出」のプロセスのうち、どこでボトルネック（縮小）が起きているかを確認します。

2. 移輸出入収支額（生産分析、2018年）

- 地域経済循環マップ > 生産分析 > 産業別の分布を見る TAB

【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

- 「移輸出入収支額」とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が出ていることを示す。
- [電気機械]が移輸出入収支額プラス222億円で最も域外からお金を獲得している。
- [卸売業]が移輸出入収支額マイナス58億円で最も域外にお金が出ている。



この経済分析は「RESAS」活用しています。

作成：大山崎町商工会